



週報

VOL
XVI

佐 沼 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ

LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で 道を照らそう

例会場 七十七銀行佐沼支店ホール TEL(2)-2577
例会日 毎週木曜日 12.30~13.30
事務所 振興相互銀行佐沼支店 TEL(2)-2547

会長 千葉重雄
幹事 大河内 清
週報 白石謙造 村上武彦 小林忠秋
阿部正美 秀 義弥

第759回例会

1979. 10. 25 No.16

◎ 本日の出席率 36名中(内2名出席免除)27名出席
75%

欠席会員 狩野会員、遊佐(新)会員、遊佐(徳)会員、
若見会員、太田会員、及川(健)会員、佐藤(文)
会員、佐藤(利)会員、大河内会員

◎ ビジター 齊藤よしお君(築館RC)

◎ ニコニコボックス

○ 阿部正美会員

10月20日、奥様が37回目の誕生日を迎えられま
した。

○ 小山敏男会員

長男尚夫様が満20歳の誕生日を迎えられました。

○ 白石謙造会員

10月26日、長男隆彦様が26回目の誕生日を迎え
られました。

—以上の方々大変おめでとございました。—

○ 佐藤幹哉会員

21日行なわれましたクラブ主催の少年野球大会が、
会員の方々のご協力により、盛況のうちにつつがなく終
了いたしました。会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

—大変ご苦労様でした。—

○ 斉藤不二夫会員

少年野球大会に、已むを得ない事情で欠席し、申し訳
ありませんでした。

○ 後藤孝雄会員

少年野球大会に、所用のため欠席いたしました。

○ 白石謙造会員

少年野球大会に、所用のため欠席いたしました。

○ 甲矢勝也会員

少年野球大会に、所用のため欠席いたしました。

◎ 会長要件

台風20号が去りまして、農家の方々は稲の被害復旧に
多忙のようで、私たちも被害がいくらかでも軽く済むようお

祈りしたいと思います。

去る21日の郡内少年野球大会開催につきましては、青
少年奉仕委員会の万全の準備と、会員皆様方の特段のご協
力により、事故もなく、盛況のうちを終了いたしましたこ
とを心から厚く御礼申し上げます。

本日は、プログラムによりますと、職業奉仕のフォーラ
ムになっております。職業奉仕委員長さん、よろしくお願
い申し上げます。

今月27日28日の両日にわたりまして、青少年奉仕委
員会の研修会が、花山少年自然の家で行なわれます。阿部
正美会員に出席していただくことになっておりますので、
大変ご苦労様でございますが、よろしくお願ひ申し上げま
す。

先日退院されました氏家良人会員についてですが、ほと
んど全快されましたので、本日から例会に出席されるとい
うことになりました。ところが、あと3回ほど精密検査
を受けなければならないということで、ちょうど毎週木曜
日が検査日に当たるとのことです。従いまして、検査が終
るまで、あと3週ほど例会を休ませて欲しいというご要望
でした。来月半ばの例会には、あのお元気なお姿が拝見で
きるものとご期待する次第です。

◎ 幹事報告

1979年~1980年度の第252地区宮城県北部I・C・G
・Fの案内が来ております。日時は11月25日(日)午
前10時から鳴子町の鳴子ホテル新館で行なわれます。登
録開始が午前9時30分、登録料が1人5,000円、各ク
ラブ義務出席が10名です。出席義務者は、会長、幹事、
次期会長、クラブ奉仕委員長、職業奉仕委員長、社会奉仕
委員長、国際奉仕委員長、青少年奉仕委員長、新入会員と
なっております。

◎ 青少年奉仕委員会(佐藤幹哉委員長)

青少年奉仕委員会から会員皆様にご挨拶を申し上げます。
21日は皆様ご承知の通り、台風一過の秋晴れに恵まれま

して、つつがなく大会を終了いたしました。これも会員皆様のご協力の賜と深く感謝を申し上げる次第です。当日は約20名の会員のご参加をいただきました。特に昼食のうどんが大好評でございまして、佐利会員提供の豚肉、鈴木会員提供の味つけ、これをコック長として腕を振るわれた千葉春男会員が巧みにミックスさせまして、まことに良い味でございました。少年選手たちも大喜びで舌づつみを打っていたようでございます。決勝は南方小学校と東郷小学校という南方勢同士の対戦となりましたが、よく訓練されておりました東郷小学校が優勝いたしました。地元の佐沼小学校チームは、投手が不調で、準決勝で敗退し、本大会始まって以来、初めて地元以外の学校が優勝したわけで、これも考えようによっては、登米郡のレベル向上のために喜ばしい結果ではなかったかと思われまます。

なお、当日ご出席の会員はメーキャップ扱いになるようでございます。ご協力大変ありがとうございました。

◎ 情報委員会 (齊藤情報委員長)

情報委員会からお知らせ申し上げます。ロータリーの友10月号の4ページに、ポーマR I会長の75周年の目標という文が載っておりますが、内容がなかなかシビアでございまして、75周年の目標として、各クラブでポール・ハリス賞の受賞者を最低2名出すこととっております。次に3Hプログラムに100%参加すること。第3にはインターアクト、ローターアクト、もしくはその他の青少年グループの結成を提唱すること。第4に、75周年の年度内に、最低1件の事業を完遂すること。第5に、各クラブがそれぞれ2%の会員数純増を達成すること。第6に、全世界で新たに1,000のクラブを結成すること。以上のことを述べておられます。

このうちでも、3Hプログラムが最大の目標のように考えられます。この運動の内容は、この2年間に会員1人当たりが15ドルの基金を出し合って、クラブの運動を助けるということですが、現在、なかなか基金の集まりが悪いということです。当クラブとしても、これを採り上げられまして、R I本部の方針に添うようにしなければと考えられます。当クラブでは、台湾の西門クラブとの姉妹クラブ締結を国際奉仕委員会のご尽力ですすめられておりますが、これは記念事業として立派なものではないかと思われまます。

ガバナーのマンズレーが来ておりますが、その中に9月の各クラブの出席率一覧表が載っております。それによりますと、当クラブは85.41%で、後から数えて10番目という余り香ばしくない成績となっております。どうか皆様のご協力で90%以上に出席率を高めることが当クラブの一層の発展にもつながると思っておりますので、出席委員長さんになり変わってお願い申し上げます。

◎ 佐藤幸三郎会員

交換学生でありましたモーラのことににつきまして、ちょっとご報告申し上げます。実は、今年の春から日本に住むことになりました。現在、神奈川県に住んでおります。本人は付近の英語学校で英語の教師をしており、主人はハリを研究してございまして、ゆくゆくはハワイに住みたい考えのようです。アメリカの娘が国内に住んでおりますので、私としては大変心強く思っております。そのうち機会があって佐沼に来たときは、例会に連れてきたいと思っておりますので、その節はよろしく願ひ申し上げます。

◎ 職業奉仕フォーラム (千葉(春)委員長)

R Iでは今年度初めての試みとして、10月14日から20日までの間を職業奉仕週間と定め、特に職業奉仕を強調する仕事を行うこととした。

その内容についてはロータリーの友10月号に記述されているので、まだお読みにならない方は一読していただき度いと思ひます。尚次ページに「自発的奉仕、職業、洞察」という題で豪州のロナルド・ゴフという会員がロータリーの精神について極めて平易に理解しやすく論じられているのでこれも併せて御一読願ひたい。

扱て職業奉仕の精神を理解し行動に移すための指針として四つの手段があることを申上げた。即ち宗教、道徳律、四つのテスト、商業道徳等であり、この内宗教と道徳律については前回プリントなどでお話し申上げたので今回は四つのテストについて若干ふれてみたいと思ひます。

アメリカのハーバート・テラー(1954~55年度の会長をつとめた人)が1932年に破産に類した家庭用アルミ製品製造会社の再建に当って、真実で誤りのない考え方と行ないの判断の物差しとし、日本流で云う座右の銘としたものなそうす。

当時もアメリカには完備した工場、優秀な就練工、その上豊富な資金をもった同種類の工場がたくさんあって、尋常な省力化ではとても太刀打ちができないし会社の更生も難しいそこで何か社員の基本的信念になるようなスローガンをと四ヶ月も考え抜いてこの四つのテストを作り出したと云うことであります。

そして彼は社長室の机のガラス板の下に入れておき、仕事上の指示や、人との対話に当って必ずこの座右の銘に照らしながら会社の運営に当った。又会社の広告文からは真実性の立証されないような記事は除かれ、最良とか最大とか云う誇張した言葉も姿を消した。

かくして会社は同業者からの信頼と友情を分かち合いながらお徳意様の信用も勝ち得て、20年で完全に再建されたと云うことである。

尚この会社再建の成功の裏にはテラー社長に最大の協力を惜しまなかった四人の役員がいた。何れも信仰心の豊かな人々で彼等は四つのテストの内容となっている。真実正義、友情、有用の精神に深く共鳴し一致協力して社長を援助した。

従てこの成功は一面信仰の力とも言えるものでありましよう。我々も一日の内の一刻をこの物差しの判断によって省りみる必要があると思ひます。

次に青森ロータリークラブの職奉委員長をした齊藤忠二さんの「あきない訓」を御紹介致します。

1. 商売は一にも二にも真心で
2. 小さな買手も大事なお客
3. 買う身になって売る心やり
4. 質と量正しく安く良い品を

尚終りに職業奉仕はロータリアンだけが行うものではなく同業者にもこの精神を伝え、共に奉仕を分つ義務があるということをお頭にに入れていただきたいと思ひます。

ジェームス・ポーマ会長の「奉仕の灯で道を照らそう」私共一本一本の灯は少くとも、何千人、何万人の人々が共に照らせば、闇や諸悪を追放しこの世は正に明るく輝かしいものになるであります。